



『杉良太郎とノストラダムスの大予言とやんちゃ和尚の関係』

『人を愛して 人はこころひらき. 傷ついて **すきま風** 知るだろう 』

先月のテーマは吉田拓郎の『襟裳岬』でしたが、今月は杉良太郎の『すきま風』からは行って行きたいと思います。

この詩はまるで『**予言**』です。ノストラダムスの大予言の1999年はあっという間に過ぎてしまいましたが、この杉良太郎の『**すきま風の予言**』は全国津々浦々、いたるところで吹き荒れております。

この予言詩で一番注目しなければならないのは、『**開っ広げに人が心を開いたら、傷つくということを、汝は知るであろう**』という部分です。そうなのです。皆さんもみな今感じているとおり『心を開くといろんな尖がったものが飛んできて刺さり、心が痛む』のです。

自分が『痛い』経験をしたなら、人にはそうしないようにしようと思うのが普通と思いがちですが、この『痛さ』は実は**伝染**していきます。職人の世界では、先輩から辛い仕打ちを受けながら実力を着けていった職人さんは、自分で普段抑えていても、突然カッとなった時はまさにその先輩の職人さんが乗り移ったような表情で後輩を怒り始めるといわれています。自分があれほど嫌っていた先輩がやったのと同じようにやってしまうのです。不思議なものです。

そして今一番問題になっているのが家庭の世界での『痛さ』の伝染です。これは『**見えない虐待**』と呼ばれている家庭内DV、幼児虐待の問題です。

何ものにも替えがたくわが子を大事にいとおしんで育てているのに、なぜかうまくいかない。カッとたときには思わず手を上げている。そのことで悩んでいるお母さんやお父さんが全国にはたくさんいるとのこと。自分ではなかなか理解できないのです。なぜならさっきの職人さんと一緒に知らぬ間に自分の親から自分へ伝染してしまっているから。しかし一番の犠牲者は子供たちです。

幼い頃は心が開きっぱなしで、天真爛漫でどんなことにも感動して、大笑いして、いろんな出来事があって、1日がすごく長く感じていたのに、思春期になるにつれてだんだんと心のシャッターを閉め始めます。そこには大好きだった、信頼していた、頼りにしていた人との人間関係の崩壊が存在するのではないのでしょうか。

心は傷だらけになって荒れ果て、やり場も無く安らげる場所も無くなったとき、子供たちがとる行動が家出です。都会の荒んだ社会の中に吸い込まれて消えていく運命です。

そこで 『ちょっと待った～！！』 です。

岡崎は徳川家康の町です。『厭離穢土 欣求浄土』の街です。荒んだ心をした少年少女たちを放っておけない住職がちゃんといらっしゃいます。

岡崎の『**やんちゃ和尚**』こと**廣中邦充さん**です。廣中さんは浄土宗・西居院第21代住職でお勤めの傍ら、問題や悩みを抱える少年少女をお寺に引き取り、一緒に暮らしながら更生させていらっしゃいます。そして驚くことにその数は500名を超え、現在でも15名ほどの子供たちと一緒に住んでいて、入寺を待っている子供たちが全国に1000名もいるとのこと。驚きです。

いったいやんちゃ和尚さんはどんな手法を使って子供たちを更生させているのでしょうか？

これがこれがまた不思議なことに『**開っ広げ**』なんです。

『人を愛して ひと再びこころ開き 癒されて 本堂のふすまのすきま風 知るだろう～ 』

3月16日 PM7時より テクア技研研修道場にて 和尚様の講話がございます。当日、仕事のない方もぜひ参加してください。『天に星 地に花 人に愛 岡崎にやんちゃ和尚 あり！！』です！！

感謝！ 羽原 篤史